

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和6年7月7日 阿木村づくり塾、あぎっこぐらしリコミン

開会

代表 あいさつ

今日は暑い中、またお疲れの中、集まっていただきありがとうございます。市長に私たちの意見を聞いてもらうなんてことは初めてだと思うので、素晴らしい。感謝している。

今日は村づくり塾とリコミンさんの二組です。よろしくお願いいたします。

市長

日曜日にこんなにお集まりいただきありがとうございます。

4月から各地域の皆様方と対話集会をさせていただいている。団体やグループでテーマを決めていただき、一方的な要望事項ではなく対話集会なので、私も意見を言わせていただくと、皆さん方からもご意見をいただく。どうしたらそのテーマが解決するのか、どうしたら中津川市が良くなるのか、1時間という限られた時間だが、地域の皆様とお話をする。子育て、地域産業などそれぞれテーマは違うが、行く度に皆さんがそれぞれの地域のことを真剣に考えていただいていると実感している。

今日は人数は若干多いがぜひ1人ひとと言ずつお願いできるとありがたい。

参加者

村づくり塾の会員の気持ちを代表して、2点ほど提案する。

1点は、農業振興地域の移住定住について。阿木地域は農業振興地域に指定されており、農業委員会に申請し、除外手続きの6つの要件すべて満たした田畑の農地転用の許可を取らなければならず、住宅等への引継ぎが簡単にできない。全国的にも農業人口の減少や、これに伴う耕作放棄が増えており、阿木地区においても同様な状況だと思う。当地区は担い手、各営業団体、農協さん等による情報で耕作放棄地の情報を共有し、力を合わせて水田、畑を守ってきているが、もう限界に近い。

阿木はUIターン者用住宅のある地域として、子育て世帯を応援する地域になっている。住宅取得について、子育て世帯スマイル応援事業を定住推進課でやっていると思うが、このUIターン住宅の今までの入居者で、阿木定住世帯は少なく、地区外に行ってしまう世帯が多いと感じている。このような現状を踏まえて、入居条件の緩和、例えば、UIターンではないが阿木に住みたい世帯とか、その辺の条件を勘案して入居できるといい。

また、耕作放棄地の農地転用除外手続きを特認事項対象として、農業委員会等で地域を絞って、住居に適した場所を認定するようなやり方ができないか。

阿木には緑が多く、水も空気もおいしく、よい人ばかりで、不便さはあるが、田舎だからこそ自然の豊かさを守られるという地域だと思う。そんな場所に住んでみたいと言われる方が多くいると聞くので、今後当地区の移住定住の課題は、空き家対策を始め新築住宅の取得等に対して、地域全体で受け入れ体制を整えることだと考える。

2点目は、市道の整備について。阿木地域には山林が多く、道路際に雑木等が生い茂っている。地域住民をはじめ、移住定住者が安心して暮らせる地域づくりのひとつとして、市道にはみ出したり、道路に覆いかぶさる枝等を、市の特例として、地権者への確認を省略して伐採し、取り除く環境整備の実施を提案したい。救急車や消防車の緊急車両の通行の妨げや、大型農機の運搬等に支障をきたすような状況もあるので、必要性がある。

参加者

木が出ているが、地権者がいいと言わないと切れない。頼みに行って切らせてくださいと言わなければならない、とてもできることではない。道に出ているところに関しては全部切らせていただくとしたい。県道もすごく、また、大型車がバツと対向車線に出るので、怖くしょうがない。

定住の件は、農振地域はどうしても農振を外すのに手間も時間にかかるので、阿木に住んでもらいたいが、待てずに他所へ出る時もある。そこを何とか考えていただけないか。

参加者

村づくり塾と特産営農組合で、毎月24日に定例会をやる。この中に移住してきてくれた人が二人いる。1人は今日出席で、もう1人は欠席。

私たちは移住してきていただくと米1俵、阿木に住んで子どもが生まれると1万円差し上げている。子どもは20年先に農業をやってくれるかもしれないから、皆さんの考えでやっている。

市長、聞きたいことがあったら指名してもらっていい。今日は移住してきてくれた方がみえるので、どういうお付き合いをしているかなどを聞いてもらう。

市長

移住されての感想も含めてお聞きしたい。

参加者

移住といっても、私の場合はちょっと珍しく、転勤になる。会社が新規事業として農業を始めて、飯沼の物件を購入した。ゆくゆくは農業法人を取りたいので、常駐者が必要で、私が手を挙げ、住民票も移して単身赴任という形で家族を残して引っ越してきた。移住して私1人で農業に取り組み始めたのが2年前。農業のことばかりだったが、周りを見れば非常にいい人たちがばかりで自然は豊かだし、こんなにいいところはないと思っている。

会社の施設なので、社員も時々研修などで訪れるが、阿木を見て非常に喜んでいる。非常に静かで、自然豊かで、こんなところで仕事ができるのはいいねと言われるが、じゃあお前農業やってみろよという、それくらいの気持ちでは取り組んでいる。

やはり実際に来ると、そもそも来ないと素晴らしいかわからないというのもあるので、私も一生懸命、会社の中で阿木の良さを、農業の楽しさを伝えようと考えている。数日前に飯沼を本社にして子会社を興した。引き続きお世話になっていく。

会社からも、現地で地域採用をしたり農業の方の発展のために貢献するよう言われているので、現在ひとりだが、ゆくゆくは人を増やしながら、地元での連携なども考え、色々なことに取り組んでいきたいと思っている。

これから個人農家さんも大変なこともあると思うが、私の場合は民間企業だからできることもあると思うので、どんどん協力していきたい。ゆくゆくはこの阿木の地域の人が増える、家族が移住してくるというようなところに貢献できればと思っている。

参加者

2024年当初にあぎっこぐらしリコミンという任意団体を立ち上げた。阿木の空き家が増え、子どももどんどん減っているのを感じているので、このままじゃいけない、何とかしないきゃいけないと言うが、実際に動いている人がいない印象で、実際に動くために集まったのがリコミンという団体。

阿木の子どもは、古い方によると10分の1くらいになっていると聞く。高齢化率も、

43.6%で市街地の 10%ぐらい高く、50%になるといわゆる限界集落になり、地域の活動の維持が困難になる。もうあと 7%で限界集落になり、阿木から人が出ていってしまうと感じており、自分たちの力でなんとかできればと活動している。

若いメンバーが集まっていて、平均年齢は 40 代。仕事も子育てもしているが、定年してから活動しても間に合わないということで、今始めた。

活動の大まかな仕組みは、会社のように分担して、代表、副代表、企画部長、広報部長、空家部長、人材派遣部長と部ごとに役割分担して活動している。

リコミンのネーミングのルーツは、古民家をリサイクル、Re 古民家が由来。今までの活動内容は、阿木の未来を考える会として地域意見交流会を開催し、約 40 人が参加。今日の村づくり塾、特産営農組合、キャンプ場で盛り上げようとしている方、学童を立ち上げた方等の話を聞いた。有志を募って残ったのがこのメンバー。

イベント等の紹介だが、3 月の阿木のつるし雛祭りで、安岐そば、阿木味噌、阿木のお米を使ったポン菓子を販売しながら、移住相談のブースを作った。SNS などを使って募集をかけて、3 組の方が移住の相談に来てくれた。また、ゴールデンウィークに、講師をベテラン農家の方に依頼して、田植え体験をイベント化した。SNS で告知して、県内と県外から 2 組の方が来られた。田植え体験をして阿木のお米を食べてもらい、紹介できる物件 1 件の空き家ツアーをした。今後は、特産営農さんのサツマイモの苗付け、芋掘りイベントも順次、市外に公表していく。

近々、田植えイベントに来た 1 組が阿木に移住してくれることになった。県外の方で、お子さんが田舎暮らしを気に入ったことがきっかけと聞いている。半年で成果が 1 組。補助金を使わず自分たちのアイデアと活動だけで、外から人を連れてくることができたのがすごくいい事だと考え、引き続きこの活動を続けていきたい。

今日の主題だが、外から来られて家を買われて、家の中で犬を大量に飼ってる方がいる。いつの間にか増え、今 3 軒ある状態。困っているのが、敷地内で犬を多頭飼いし、何度も犬が逃げ出していること。実際に被害は出ていないが、通学路なので、子どもの被害が心配というのが常にある。阿木事務所から要請、要望しているが、改善されていない。糞尿の臭いがたちこめており、周りの環境が悪化している。ここの 3 軒は中国の方が住んでいて、近隣との交流がなく、その人となりかわからない。周りに人がいないからやりたい放題のイメージを持ちつつある。

外から来た人が、買った家や山で好きなことをされて、結局、臭いがひどいといったことをされると困る。まず、移住トラブルが発生した時の対処法、苦情を伝えても改善されなかった時どうしたらいいかわからない。阿木は人口密度も低いし、声としては市からみたら数パーセントの非常に小さな声にしかないが、大きな声にする方法もわからないので、今は苦情を無視していた方が得みたいなことになっている。

また、飯沼にゴルフ場があり、数年前に社長が韓国籍の方が変わったので、韓国の方も、阿木の空き家を探していると聞く。中国や韓国の外国の方々が、自然豊かだから住みたいとかではない理由で、阿木の空き家を探している印象があり、心配なので相談したい。

参加者

隣近所の付き合いがないと言ったが、近所の人から畑を借りて作っている。それと朝、信号のところで立っていると、ちゃんと挨拶をしていく。だから、そういう人間がいるかもしれないが、つきあいがある人間もいる。

参加者

そこまで毛嫌いしてはダメで、全部が悪い人ではない。
ちょっと偏見がすぎるのではないかな。

参加者

臭いは、確かに道路を通れば臭う。

ゴルフ場も地元としては大事にしてもらわなければ。一生懸命やってくれているから、そこまで言うのはどうかと思う。

参加者

阿木にはいろんな人がみえるので、阿木のルールを決めて、来てもらう人も、国が違って同じ人間なので、理解をどういうふうにしてもらうか。地域の人がいるの席で自分で文書で書いていただいて、印鑑を押してもらって承諾を得ると。そうすれば、そういうことじゃ駄目じゃない、これで約束してるじゃないって言うこともできると思うので。犬のところは知らないうちになっていた。地域でそういうことをガードするというか、そういう話をする必要が出てくるかもしれない。

参加者

今は入り口に戸を張ったので、犬は見えなくなった。区長さんが動いてくれたという話は聞いている。

参加者

彼らも規則にのっとってやっている。区長も保健所と一緒に何回か立ち入って見ているけど、規則にのっとってやっているから何も言えない。

参加者

お互いに理解、話し合ってもものがない。お互いに理解していかないと。そのために話し合いが必要だと思う。そういう場を設けてひとつずつ、進んでいくしかない。

参加者

それは市長ではなく地域の自分達が気持ちを理解してもらうことをしないとイケない。市長なんとかしてくれていうのはちがう。仲良くみんなで話し合っひとつひとつクリアしていくように努力していく。

糞尿や臭いなどさっき言っていたことは、ある程度加味してもらえるところもあるかもしれない。だから話し合いを持つ。相手の人も、全然話がわからないことはないので、根気に行くこと。

参加者

特産営農はサツマイモを1万本作った。そのサツマイモを組合長が子どもたちに12月の休みになる前に、さざんか9の人と焼いて、小学校・幼稚園・中学校と振舞った。全部タダ。特産営農も村づくりも、利益があることばかりではない。いろいろ皆を寄せるためにはどうしたらいいか。24日の定例会が毎月あるので、そこで皆さんと話し合っ、皆さんの理解を得ることが、唯一の若い者と年寄りのかけ橋だと思うので。

市長

この間、市内の地域事務所、総合事務所の所長の活動報告があり、阿木事務所からはリコミンさんの活動の話があった。私はそれまで活動を知らなくて。安岐そばだとか焼き芋を六斎市で食べさせてもらったり買わせてもらったりしているので、特産営農の方はよく知っていたが。若い方が、阿木地区のことを考えて取り組んでくれているってすごい。他の事務所で同じようなところもあるのかもしれないが、そういう取り組みが市内各地で起きてくるといい。人口減少は全国的にもそうだが、中津川市も一大課題。先ほど阿木地区の子どもが減ってきたという話があったが、市内全体で減っている中で、今年の1月、昔でいう成人式を迎えた人たちが約830人。昨年1年間の中津川市の出生数が約350人で、半分以上。この20年で子どもの数が半減した状況の中で、どうやって人の数を増やすか。出生数と移住定住をどうやって増やしていくか。

出生に関しては、これという得策はないが、市としてもいろんなご意見をいただいている。子どもの出生に対してもっと他と差別化するくらい支援をした方がいいんじゃないか、例えば、子どもが1人生まれて数万円とかではなく、もっと金額を出す方がいいとか。

出生数もさることながら、それ以前に結婚する数が少ない。結婚してもらうためにいわゆるマッチング、見合いを市として取り組んでいる。いろんな方にご協力いただきながら取り組んでいるが、晩婚化してきている中でどうやって結婚してもらうか。

今日の移住定住の話でいうと、阿木地区は先ほどの県外の方が移住するというのはすごいなと。どうしてそのために来ようと思ったか、そこを知りたい。

参加者

移住する人は、私がSNSでリコミンの投稿をして、反応してくれた友人の友人。その方は、生き方のシフトチェンジをしようかなと考えていた。自分が移住者なので、タイミングよく移住の知り合いがいなかったと聞かれた。初めは2拠点生活という話だったが、とても気に入ってくださり、移住するっていう話になった。その方の周りにも移住したいという声が結構上がっていると聞く。能登の震災もあって、いろんな社会の状況を見ながら、生き方を変えようと考えている若い人が結構いるみたい。ちょうどタイミングよく空き家があった。そのタイミングが合う合わないで、また変わってくる。タイミングがあったことでスムーズに移住定住につながったので、力を入れて空き家対策をしたい。次に移住したい方がみえても紹介できる空き家がないとそこで止まってしまう。

参加者

だから農振除外を早くしてほしい。家が建てられるようにしてもらいたい。空き家じゃなくても新しい家だっていい、そこにこだわらなくていい。阿木に住んでくれる人に来てもらうということが大事なことだと思う。よろしくお願いします。

市長

空き家に関して、加子母の対話集会でも移住定住の話があった。今お話があったように、全国的にも移住のニーズは意外と多い。東京の回帰センターは、首都圏の皆さんが移住定住について相談に行く場所で、各県のブースがある。そこでの話で、移住を希望される方は仕事を辞められて定年した方が多いと思っていたが、全然そうではなく、40代以下の方が7割だと聞いた。大事なのは仕事と住まいの2つ。そういう意味では新築という選択肢もあるが、空き家という選択肢もある。空き家情報バンクで情報集めをしている中で、空き家になっているところが少なからずある。

売買物件は市内でも結構登録はある。少し地域差、地域の温度差はあるが、賃貸物件は少ない。阿木地区はいいところですよすぐ住みたい、だが住むとなった時に買わなきゃいけない物件なのか、賃貸でいけるのか、そういう物件をある程度、数を出しておくことは必要なこと。ここは本当に環境が良く、地域の方に移住者がいてよくわかってみえて、あとはどうやって呼び込むか、地域としてのよさをどうやって発信していくかということだと思う。

阿木は他の地区との一番の違いはソバだと思う。畑だけではなく、蕎麦の状態にして食べてもらうところまで完結しているのが阿木の特色だと思う。また、今まで8～9回ぐらい対話集会をやっているが、2団体でというのはない。一緒にやろまいかっていう地域のよさがあるのは、ここが阿木だからかなというふうに思っている。そういうところは人を呼び込むための魅力だと思っている。

先ほどの農振をはずすっていう話は、今すぐ「はい、わかりました」という訳にはいらないが、そういうニーズは各地で聞いている。農業される方も、引き継いでやっていただく方も少なくなってきた、「もう荒れ放題だよ、どうしていったらいいんだ」という話も聞いている。阿木だけじゃなくて、皆さん一緒だと思うが、これもなかなかすぐには答えが出ない。規制もある。

参加者

農振で、私たちは今農業をやっている。農振でない地区と一緒にじゃ気に入らない。農振やっていたら、農業経営で食っていけるような体制をとっていただきたい。やっぱり農業で食っていけるようにしてほしい。これからやる人がいなくなる。俺も農業好きだし、阿木も好きだし、自然も好きだし。若い人に託したい。皆さんも多分一緒だと思う。だから特産営農と村づくりと一緒にやってやる。だから若い人を大事にしたい。若い人はお金がないから補助金をたくさん出して欲しい。今のポイント制じゃなくて、条例でも作っていただくと農振の中で農業ができていくようになる。日本の米が足らないようにならない。平場だけじゃない山間地もある。山間地をどうしていくかということが今日本でも問題。

だから、阿木の農振の人には30ポイントとかになるといい。それだと農業やろまいかと、阿木来てやろまいかと。人口増えていく。

私達も頑張って、老体に鞭打って今日も山牛蒡を植えてきた。草刈を朝からして、それからサツマイモや小豆も植えた。もうすぐ焼肉もやるし、秋も年末にもやる。和気あいあいとみんなでこういう会ができたので、いろんな話をまた振っていただきたい。それはこっちもなんとか反応する。

参加者

安岐そばの話、第三セクターの関係もあって、店がちょっと辺鄙なところにあってお客さんがなかなか寄りつかない。この阿木交流センターでやらせてもらおうと、お客さんばかりになる。どっかの駐車場で。

参加者

リピーターが結構、来ていただけているみたい。

参加者

安岐そばを馬籠で販売することはできないのか。馬籠には観光客が多く来て、お蕎麦を食べる。長野県から仕入れた蕎麦だと言うよりは、お店の人も地元のものだと言う方が営業しやすいだろう。

参加者

馬籠に売り込みに行ったが、阿木の蕎麦は最高でものいいが、手間が2割余計にかかる。だから買えないと言われた。

参加者

最初は買ってもらっていた。今度は乾麺でいくつというので、乾麺はわからない。

市長

阿木の皆さんは何でも自分たちでやるというイメージがあるし、非常に明るい。だから先ほど言った移住みたいな話も、あとはPR。そのPRがなかなか難しいが、市も一緒になってやっていく。

影響力があるのは実際移住をされてきた方の声で、一番インパクトがある。そういう人達のPRを中心になってやってもらいながら。農業をやりたいと移住した方も市内にいる。そういった方達の苦労もある。思っていたことと違うということも当然ある。それも包み隠さず話してもらうことで、そこでまた判断してもらえる。

就農で来ていただく方の一番の問題は、やっぱり収入の安定。冬場の収入をどうするか、そこをまとめて解決しようということをいろいろ話し合った。そういうノウハウを、市も一緒になって考えてやっており、市でも情報を持っているので、共有できると思う。

市道の木の話は、気持ちはわかるが、なかなか私有地の木を許可なくして切るというのは難しい。倒れたものは別だが。

参加者

消防車救や急車、切ってくれなければ行けない。実際に火事があったって行けなかったのも、ヘリコプターで消してくれた。埋まっているのが相当ある。

参加者

1軒1軒地権者に承諾を得て、1年くらいかかった記憶がある。ようやくそれで枯れ木だけは切れる。いっぱい立っている覆いかぶさってる木は切れない。

市長

地権者の方と連絡はつかないのか。

参加者

地権者に連絡すると、こちらで切らせてくださいということになる。あなたの責任だから切ってとはなかなか言いにくい。だから、地権者のところへ行って承諾を得たら、全部私が自分ひとりで切る。いちいちそんなことをやったらとてもじゃないが大変。

参加者

移住定住も大事だが、阿木は保育園から高校まである。阿木高校に行く地元の子はほとんどおらず、阿木以外の学校へ通っている。うちの場合、明知鉄道を使っていたが、定期にすると半年で何万円もする。その当時中津川市が距離によって補助金・手当てを付けたが、月に何百円しかなく高いので、親や祖父母が近隣駅等まで送迎していた。逆に阿木に通ってくる学生たちもいる。学生に対して市の補助があれば明知線としても使ってくれる子が増える

し、阿木から通う子の親の負担も減る。住人や移住してきた人の子どもが大きくなったら絶対出てくる問題なので、中学生までの対応ではなく、高校生のそういう経済的な負担を考えてほしい。阿木は明知鉄道があり、他地域のバス通学と比べメリットがあるイメージなので。

定住推進部長

現状、定期等の補助、公共交通に関しては、通学の補助を行っている。市民に限るが、6千円以上の月定期に対して6千円を引いた半額を補助している。2年前に改正している。

参加者

金額が当時から今で上がっていればいい。今住んでいる人たちの生活を良くしたい。

市長

対話集会を各地でやる中でいつも思うのは、申し込みいただく皆さんは、その地域のことを真剣に考えていただいている方ばかりで、まとまっているということ。

今日のテーマは阿木地区だけでなく市内どこにも共通している課題。農業も課題が色々あるが、市内の各地でいろんな取り組みをしている。阿木地区はリコミンさんだとか、モデル的なところがある。皆さんが他の地域の取り組みが参考になることもあると思うので、市や地域事務所にお聞きいただければ情報共有できる。

中津川市は本当に広い地域なので、それぞれの地域の特色を生かしたまちづくりをしていかなきゃいけないと思っている。阿木地区は今いい形で盛り上げていただいているし、皆さん阿木が大好きな方が集まって、こういう取り組みをしていただいているのは本当にありがたい。そういったところを前面に出しながら、阿木地区のまちづくり、移住定住も含めて、楽しんで生活ができるか、暮らしやすくなるのか。特色を生かした阿木のまちづくりをぜひやっていただきたい。市も一緒になって取り組んでいくので、各地のまちづくりが1つになって、中津川市全体の大きなまちづくりがつかれると思う。

リニアの開業時までには、中津川市はこんなまちだから移住定住しませんか、というのをぜひ全国的にも発信をしていきたいし、それぞれの特色を出していただくことがそういったところにもつながっていくと思う。

阿木の取り組みを今後も続けてもらいたい、そこにリコミンさんが新しく立ち上がったので、一緒に様々な取り組みができるのかなと楽しみにしている。

今日はありがとうございました。引き続きよろしくお願いします